

式辞

秋が深まる今日この日、本校は創立三十九周年を迎えることとなりました。この晴れがましい日にあたり、ご多用の中、同窓会長 福田謙一郎様、PTA 会長 樋口知子様、学校評議員・高崎市立高南中学校長 伊藤尚毅様 をはじめ、同窓会や PTA の皆様のご臨席を賜り式典を挙行できますことは、誠に喜ばしい限りでございます。また本日の式典開催にあたり、日程立案や関係者への連絡、式場設営をはじめとする諸準備に当たられた本校職員一同、そして生徒諸君にもこの場を借りてお礼申し上げます。無事、式典を開催することができました。本当にありがとうございました。

さてこの創立記念式を契機に、本校の歴史を再確認しておきたいと思えます。本校の開校が決まる約十年前の一九七〇年代は七二年に沖縄がアメリカの統治下から日本に復帰し、翌七三年は第一次オイルショック、同時に一ドル三六〇円の固定相場制が終わって変動相場制となりました。高度経済成長に終止符が打たれた時代です。しかし昭和四六年（西暦一九七一年）から四九年（西暦一九七四年）は第二次ベビーブームと呼ばれた時代でもあり、昭和四八年（西暦一九七三年）は約二〇九万人もの子供が生まれています。ちなみに昨年の令和三年は八四万二八九七人です。第二次ベビーブームの子供たちが高校入学を迎える年代、それが一九八〇年代の半ば以降になります。群馬県は高校入学者が昭和五四年あたりから大幅に増えるとの予測を立て、昭和四九年（一九七四年）から昭和六二年（一九八七年）まで一四年間の高等学校新設計画を発表しました。この計画は前期と後期に分けられ、本校は「公立高等学校拡充整備後期計画」の一環として、昭和五八年（一九八三年）十月七日の県議会において設置が可決決定され、正式な校名が同年十月十二日に「群馬県報」に公布されたのです。従いましてこの十月十二日を開校記念日と定めています。なお本校と同じく後期計画で新設された高校には、前橋西、太田東、藤岡北、館林商工の学校をあげることができます。

開校までの準備室は高崎女子高校内に置かれ、昭和五九年（西暦一九八四年）の三月に行われた第一回の入学者選抜学力検査は高崎商業高校の施設を借りて行われ、検査問題の採点は高崎工業高校の先生方の協力を得、合格発表は再度高崎商業高校が場所を提供してくれました。このように本校は地権者や地元の皆様だけでなく、近隣高校など、多くの方々に助けられながら産声をあげることができたのです。

以来三十九年、小さかった校庭内の樹木も大きく成長しました。それとともに校舎は経年劣化していきました。幸いにも県から予算をつけていただき、今は教室棟の改修工事を進めています。来年には新装となった校舎で目出度く創立四十周年を迎えることでしょう。

今後とも地元の皆様、本校関係者の皆様への感謝を忘れることなく、様々な教育活動に邁進していく所存でございます。引き続き皆様方のさらなるご支援をお願い申し上げますとともに、本校関係者の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、創立三十九周年の式辞といたします。

令和四年十月十二日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦